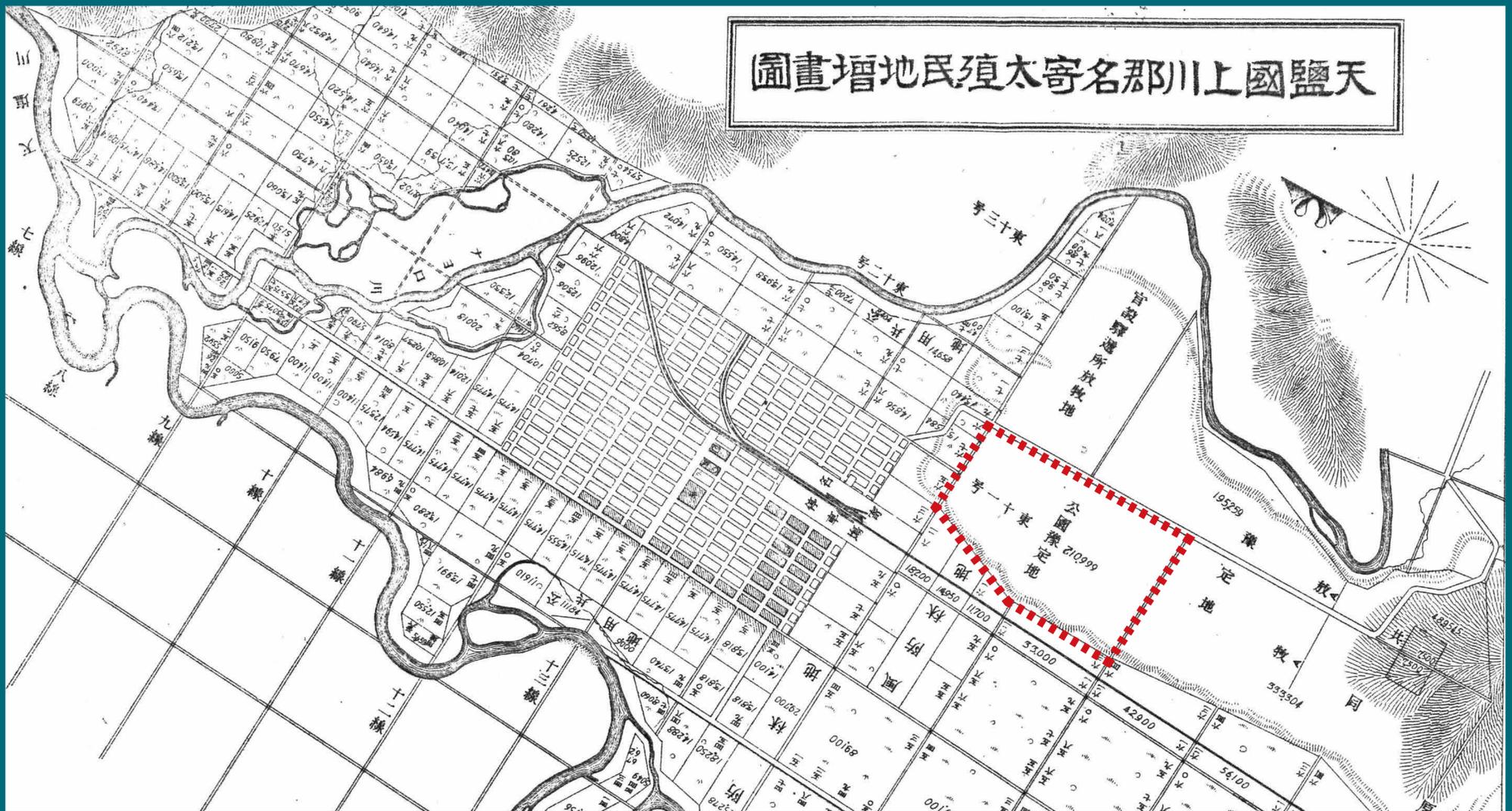




名寄公園 (名寄市)



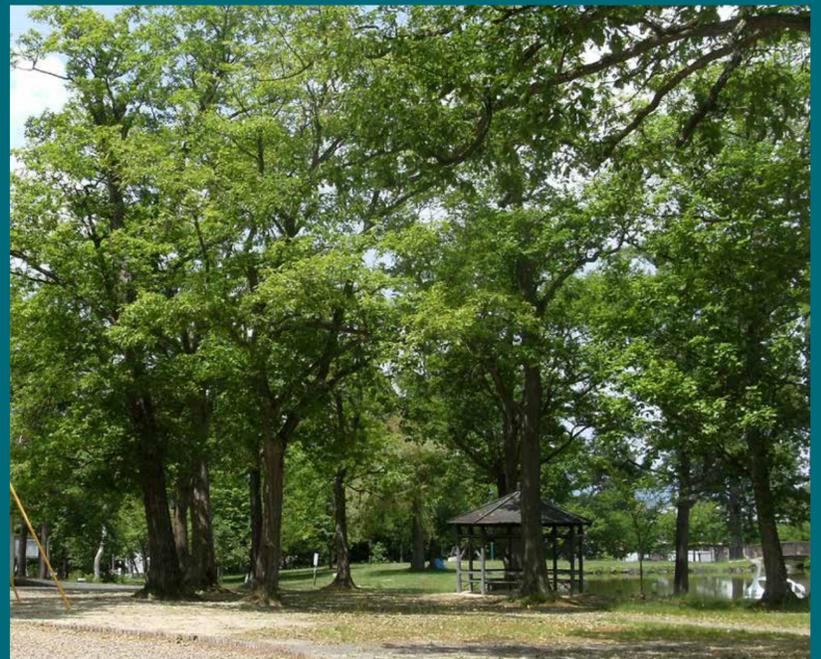
名寄市街地の東に広大な公園予定地が設定されている(名寄太殖民地増画図：1911(明治44)年8月印刷版より)

開拓時代から計画的に作られた公園

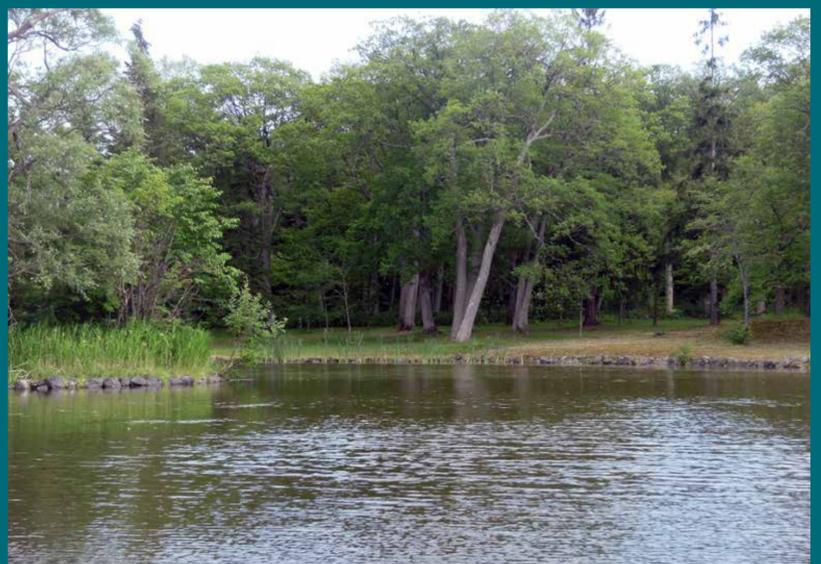
1901(明治34)年、名寄に殖民地地区画が設定され、その中に市街地面積の37%に相当する約69haの公園予定地が設けられた。1922(大正11)年に北海道帝国大学の星野勇三教授と前川徳次郎助教授によって設計が行われ、翌年から公園建設が行われている。

計画図では運動場、池、競馬場などが示され、説明書ではミズナラ林の保護が訴えられていたが、その後、運動場、競馬場、ミズナラ林の一部は農学校用地として失われた。1989(平成元)年からの改修工事を経て、現在は名寄を代表する総合公園となっている。

明治時代の殖民地地区画に予定された公園用地が、実際に公園化され、現在も公園敷地の輪郭を留めており、当時の池やミズナラの自然林が残されていることの価値は高い。



ミズナラ林が今なお保全され、開拓以前の様子をしのばせている



池の周辺は、整備当初の雰囲気をそのまま留めている

概要

名称	名寄公園
所在地	名寄市字緑丘
管理者	名寄市
規模	22ha
種別等	都市公園(総合公園)
整備年	1923(大正12)年
告示年	1955(昭和30)年都市公園告示(当初)